

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC News No. 86を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

■随想

◇日本のお祭りシリーズ（その6） ー高知絵金祭りー

関東学院大学 織 朱實

■編集後記

■トピックス

◇PVC News No. 86を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

9月13日に塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は[PVC News No.86](#)を発行しました。今号の「トップニュース」は、プラスチック業界が結成して活動している出前授業を紹介しています。

No. 86号の構成は以下の通りです。

○トップニュース

プラスチック教育連絡会、動く

ー中学校でのプラスチック教育に対応。出前授業や展示活動で理科教師を支援

○シリーズインタビュー/さきがけびとにきく

とらわれずに、変わる

ーファッションからアートまで。

対極の世界を自在に往来する「ものづくり」の精神

染織作家・Art and Textile Workshop もうりょう 舞良 雅子 氏

○リサイクルの現場から

蟹江プロパンの塩ビ複合材リサイクルシステム

ー独自開発の熱板技術を用いて、

塩ビターポリン、塩ビレザーなどの簡単分離を実現

○インフォメーション

1. 塩ビの明日にチャレンジ！「PVC 維新の会」

ー関西の塩ビ加工業界若手が結集。ものづくりの新たなレベル求め活発な活動

2. 塩ビ管・継手協会の普及・啓発活動（塩化ビニル管・継手協会）

ー実証データに基づき「安心して使える塩ビ管」を強力アピール。

約75自治体を3年掛かりで巡回訪問

○ものづくりの現場から

元祖が語る！塩ビなわとび物語

ー業界最大手(株)ベルテックに見る、

塩ビなわとびの誕生と変遷、そしてこれから

○広報だより

・「下水道展 2013 東京」に出展（塩化ビニル管・継手協会）

掲載記事をいくつかご紹介いたします。

「シリーズインタビュー/さきがけびとにきく」は、染織作家・Art and Textile Workshopの舞良さんにご登場頂きました。舞良さんはホームスパン（手織りした毛織物）産業では全国で八割を占める岩手県に工房を構えています。伝統的なホームスパン技術から外れて、誰もやったことのないことに挑戦する。固定概念にとらわれず色々なことを試す。そんな自由な発想のものづくりについて語って頂きました。

「インフォメーション」は、今号は二本立てとしました。

一つ目は、関西の塩ビ若手加工業者が結集し活動をしている「PVC 維新の会」を紹介。設立して一年半が経過し、産学協同の上田安子服飾専門学校とのコラボレーションも二年目を迎え、活動も本格化してきています。

二つ目は塩ビ管業界が取り組む普及のための啓蒙活動について。約 75 もの自治体を三年がかりで訪問し、実証データに基づき説明を行い、安心して使える塩ビ管をアピールしていきます。また、関連官庁・自治体・事業体などに向けて「水道編」「下水道編」「農水編」の技術的な資料を作成して送付。その他、講習会や研修会も開催していく予定とのことです。

「ものづくりの現場から」は、テレビでも紹介された塩ビなわとびの紹介です。

縄の中に螺旋状に入っている塩ビの部分は、偶然出来たものが大ヒットに。NPO 法人日本なわとびプロジェクトを立ち上げ、小学生のものだというなわとびのイメージを払拭し、なわとび人口を拡大するためにイベントでなわとび教室を開催したり、スポーツ科学の観点からも中京大学の先生とともに研究を行っています。今後はなわとび体操やなわとび検定の実施などを目指して行きたいとの抱負を語っていただきました。

『PVCニュース』は[JPECのホームページ](#)から、最新号、バックナンバー共にご覧頂けます。

ご講読を希望される方は、[こちら](#)まで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

■ 随想

◇日本のお祭りシリーズ（その6） ー高知絵金祭りー

関東学院大学 織 朱實

日本には、「いろいろ地方ごとに面白いお祭りがあるんだな」と私が最初に思い、「いろいろな地方の独特のお祭りを写真に撮ってみたい!」と始めたきっかけになったのが、この高知県赤岡の絵金祭りです。赤岡の絵金祭りは、江戸時代の放浪の浮世絵師絵金えきんが描いた浮世絵を各戸が保存しており、1年に1回ろうそくの明かりの中で、それを各戸の軒下に並べ、鑑賞するというものです。



この幻想的な赤岡の絵金祭りについての記事を日経の夕刊で見たのが、確か、5～7年ほど前。毎年7月の第三土曜に開催されるこのお祭りは、夏の夕闇と淡い蠟燭のあかり、絵金の極彩色の対比が印象的で、「いつか実物を見てみたいな」と思ったものの、当時は、「わざわざ高知の小さな町までそのお祭りを見るためだけに、行けることがあるのかな」という感じで、「よし！行こう」とまでは踏み切れず。その後、月日が経過し、私のほうが外歩きの経験値が、ぐんぐんあがり（子供たちとだけの海外生活、アジアエリアの進出（個人的）、「え？こんなところまで？」という位世界中を回るようになって。笑。カードゲームみたいに強キャラになっていく感じですね）、もはや、このレベルなら高知までそのためだけに行くなんて、軽い！軽い！（笑）。さらに、赤岡まで足を延ばすきっかけとなったのは、入院中、待合ラウンジにあった「**ギャラリーフェイク**」25巻（青年漫画作品）（時間つぶしに全巻読んでいました）の中に、「赤岡の絵金祭り」を取り上げていた巻があったことでした。

というわけで、実は今年ではないのですが今年の7月に念願かなって赤岡に絵金の歌舞伎絵を見に行ってきました！ネット情報によると、「絵金祭りは、昭和52年、赤岡吉川地区商工会（現・香南市商工会）青年部が、商店街の発展を願ってはじめました。赤岡町・須留田八幡宮で行われてきた神祭するだはちまんぐうにならい、絵金の芝居絵屏風を商店街に飾りながら、屋台が並び、さまざまな催しが行われる賑やかな祭りです。」

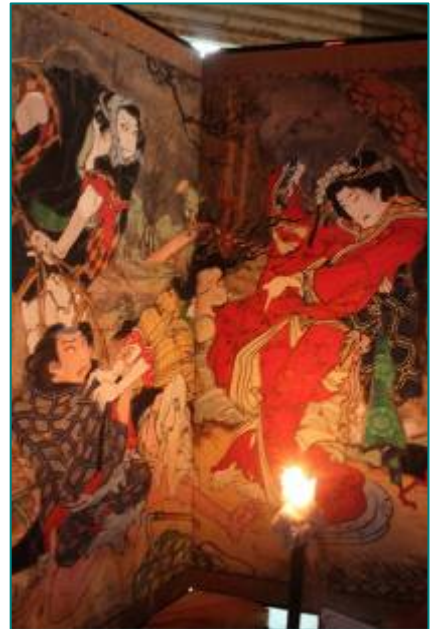
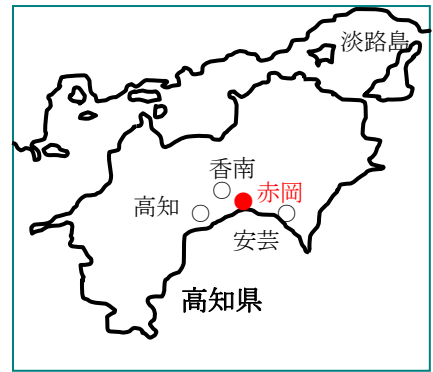


街の方が説明してくださいます。

江戸時代の歌舞伎絵がそのまま（ガラスの覆いも何もなく！まさにそのままの状態です！）路上に展示されるというのも凄いのですが、なによりも印象深かったのが赤岡の街の人たちが、絵金の絵を本当に大切に、一生懸命説明してくださる姿でした。

「現在、絵金祭り運営を担うのは商工会や商店主、屏風絵の所蔵家たちで構成する絵金祭り実行委員会。毎年、出し物の内容や販売品などについて、議論を重ねながら運営にあたっています。この祭りは地元商店はじめ、多くの地域企業・団体からの寄付によって支えられています。」とのこと。

もともとは、赤岡の街の裕福な商人が、歌舞伎など見ることができない家の下僕やお手伝いさんたちにも楽しんでもらおうと、江戸から追われるように漂流し赤岡に滞在していた絵師絵金に描いてもらった絵だそうです。平成21年には、絵金祭りとして展示されている赤岡町の芝居絵屏風23点は、高知県保護有形文化財にも指定されています。絵金は、歌舞伎の中でも特におどろおどろしい題材を好んだのか、あるいは当時の町民の好みがそうだったのか、華やかな花魁の絵もある一方で圧倒的に多いのは流血や妖怪が登場するおどろおどろしい題材です。



そして、これらの歌舞伎絵を鑑賞するだけでなく、絵金の芝居絵に描かれている芝居を、地元有志による歌舞伎として行われていることもお祭りを盛り上げています。毎年絵金祭りの2日間に合わせ、絵金蔵向かいの芝居小屋弁天座で上演されていますが、これが素人と思えない素晴らしい歌舞伎で、絵金の絵とともに、江戸情調を味わうことができます。

“はこ”である、弁天座も素晴らしいです。明治33年頃、赤岡町の旦那衆がお金を出し合い造った芝居小屋「弁天座」。それを復活させ、絵金祭り際には、絵金歌舞伎を演じているのは**伝承会**のみなさん。土佐絵金歌舞伎伝承会は、絵金屏風絵を題材にした歌舞伎を伝承していく有志の会だそうです。本当に皆さん、お上手で裏方さんも本当に頑張っているな、という感じで、3時間超えの長い上演でしたが最後まで見通してしまいました！



絵金といえば、幕末の歌舞伎絵師、絵金を題材にした映画「**闇の中の魑魅魍魎**」もあり、鬼才中平庚監督作品だそうです。これは赤岡ロケでタクシーの運転手さんいわく「絵金は知らない役者だったけど、加賀まりことかも来ていたよ」ということでした。絵金をやっていたのは、なんと状況劇場の磨赤児でした。この作品は、カンヌ映画祭のコンペティション部門にも参加した作品だそうです。

この時は、絵金の絵を見ているときなんと高知新聞の記者の方から「写真撮っていいですか？」と声をかけていただき、翌日の高知新聞の一面カラーで掲載されるというハプニングもあり、とても思い出深いお祭りです。



金毘羅歌舞伎もそうですが芝居小屋の復活など、地域の財産を大切に守り、発信していく地方力の高まりを、最近ひしひしと感じています。メルマガ読者の皆さんの地元でも面白いお祭りがあったら是非教えてくださいね！

私のブログでは、昨年7月に記事をアップしていますのでよろしければ見てくださいね。

⇒ [ブログはこちらです。](#)

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

■ 編集後記

旅行に行くときは車で出かけることが多い。時には1日に7-800km運転することもある。乗り換えや待ち時間がなく自由に動けるからである。先日、有名な音楽家が“車内が一番落ち着く。疲れないかと問われるが、使う神経が別だからか、かえって疲労が消えていく。”と新聞のコラム欄に書かれていたがその通りだと感じた。自分のペースで動けない渋滞はもっとも嫌うものだが、都会に住んでいるとどうにもならない。今は渋滞予測を参考に時間帯をずらすことしかできていない。(可)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp